

黒 岩 遺 跡

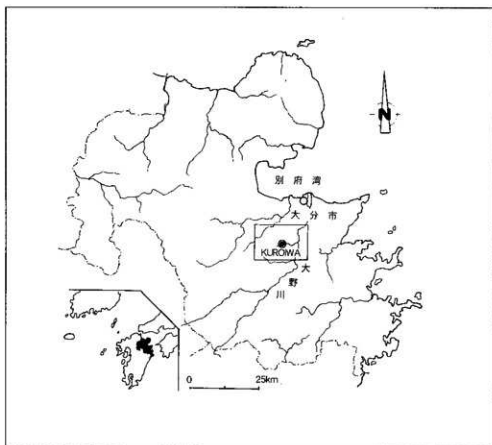
— 県道大分大野線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2004

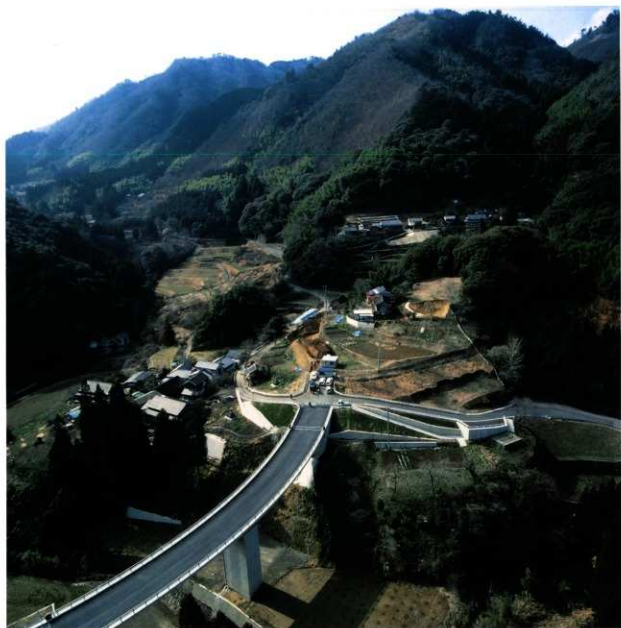
大分県教育委員会

黒岩遺跡

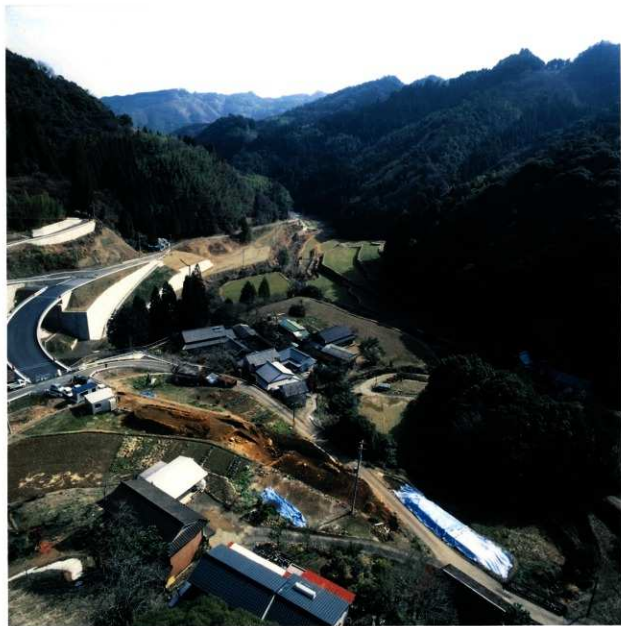
— 県道大分大野線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —



2004
大分県教育委員会



黒岩遺跡全景（東から御座ヶ岳断層方面を望む）



黒岩遺跡全景（北西から大野川方面を望む）



黒岩遺跡調査区全景（上空から）



調査区北側土層断面



南側土層断面と4区・5区の検出状況



1号集石の配石遺構（北から）



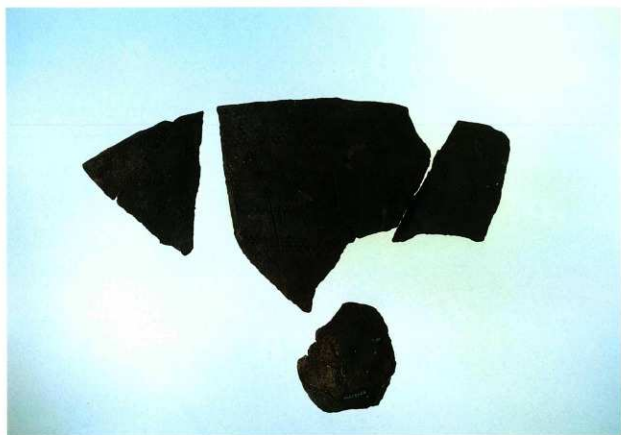
1号集石の配石遺構（西から）



5号集石



5号集石近くの斧状礫器出土状況



裙状施文土器



捺系文土器



8層出土剥片石器



8層出土礫器

序 文

本書は、大分県教育委員会が大分県土木建築部大分土木事務所の依頼を受けて実施した県道大分大野線道路改良工事に伴う、黒岩遺跡の発掘調査報告書です。

当遺跡の所在する大分市大字安藤は、昭和38年3月10日に大野郡大野町から大分市に編入された地区で、大分市の南部にあたり大野川の支流である河原内川の源流周辺にある山村地域です。

黒岩遺跡は、調査の結果、縄文時代早期の2つの文化層が確認され、多くの遺物とともに集石遺構等が検出されました。集石遺構は、炉跡や埋葬遺構と認められるもので、当時の具体的な生活の様子を物語るものとして大変貴重なものです。

本書が、埋蔵文化財の保護に向けて、また地域の先人の生活を理解する資料として、さらには学術研究の一助として活用されれば幸いです。

終わりに、この発掘調査に御支援、御協力をいただきました関係各位に、衷心から感謝を申し上げます。

平成16年3月31日

大分県教育委員会教育長

深 田 秀 生

例 言

- 1 本書は、県道大分大野線道路改良工事に伴い、大分県土木建築部大分土木事務所の依頼を受けて大分県教育委員会が実施した大分市大字安藤所在の黒岩遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査にかかる遺構の実測は、調査担当者である大分県教育庁文化課の清水宗昭、西哲弘、高橋信武、五十川雄也が担当した。
- 3 出土遺物の整理作業は、大分県教育庁文化課文化財資料室で行った。石器の実測図は一部を除いては、株式会社九州文化財研究所に委託した。
- 4 報告書の作成は、主として清水宗昭、西哲弘、高橋信武が行った。
- 5 遺物写真の撮影は、清水が行い、石器の一部は、株式会社九州文化財研究所に委託した。
- 6 本書の執筆は、第1章、第2章の2を西、第3章5-1、第3章4・第4章2を高橋、他は清水が担当した。
- 7 出土遺物並びに図面・写真等は、文化課文化財資料室に保管している。
- 8 本書で用いた方位は、磁北である。
- 9 本書の編集は、担当者の清水、西、高橋が協議して行った。

目 次

第1章 はじめに	
1 調査に至る経過	27
2 調査団の構成	27
第2章 地理的・歴史的環境	
1 地理的環境	28
2 歴史的環境	28
第3章 発掘調査の成果	
1 遺跡と調査の概要	31
2 調査区の設定	33
3 層 序	33
4 礫の出土状態	34
5 遺 構	36
1) 上層の集石遺構	37
2) 下層の集石遺構	42
6 遺 物	46
1) 縄文時代の土器	46
2) 縄文時代の石器	110
第4章 まとめ	
1 集石遺構と土坑について	135
2 土器について	138
3 黒岩遺跡の石器群	142
4 おわりに	146

図 版 目 次

第 1 図	黒岩遺跡と周辺の主要遺跡分布図	29
第 2 図	黒岩遺跡の位置と周辺の地形	30
第 3 図	黒岩遺跡地形図・調査区位置図	31
第 4 図	黒岩遺跡調査区と地山面地形図	32
第 5 図	調査区南北断面土層図	33
第 6 図	調査区北側断面土層図	34
第 7 図	第 7 層の礫分布図	35
第 8 図	第 8 層の礫分布図	35
第 9 図	遺構配置図 (上部)	36
第 10 図	遺構配置図 (下部)	36
第 11 図	1 号集石実測図	37
第 12 図	1 号集石下部の配石遺構実測図	38
第 13 図	2 号集石実測図	38
第 14 図	3 号集石実測図	39
第 15 図	4 号集石実測図	39
第 16 図	7 号集石実測図	40
第 17 図	9 号集石と土坑実測図	41
第 18 図	5 号集石実測図	42
第 19 図	5 号集石内出土砥石実測図	42
第 20 図	6 号集石実測図	43
第 21 図	8 号集石実測図	44
第 22 図	1 号土坑実測図	44
第 23 図	集石の出土層位図	45
第 24 図	7 層出土土器 (1)	52
第 25 図	7 層出土土器 (2)	53
第 26 図	7 層出土土器 (3)	54
第 27 図	7 層出土土器 (4)	55
第 28 図	7 層出土土器 (5)	56
第 29 図	7 層出土土器 (6)	57
第 30 図	7 層出土土器 (7)	58
第 31 図	7 層出土土器 (8)	59
第 32 図	7 層出土土器 (9)	60
第 33 図	7 層出土土器 (10)	61
第 34 図	7 層出土土器 (11)	62
第 35 図	7 層出土土器 (12)	63
第 36 図	7 層出土土器 (13)	64
第 37 図	7 層出土土器 (14)	65
第 38 図	7 層出土土器 (15)	66
第 39 図	7 層出土土器 (16)	67
第 40 図	7 層出土土器 (17)	68
第 41 図	7 層出土土器 (18)	69
第 42 図	7 層出土土器 (19)	70
第 43 図	7 層出土土器 (20)	71
第 44 図	8 層出土土器 (1)	72

第 45 図	8層出土土器 (2)	73
第 46 図	8層出土土器 (3)	74
第 47 図	8層出土土器 (4)	75
第 48 図	8層出土土器 (5)	76
第 49 図	8層出土土器 (6)	77
第 50 図	8層出土土器 (7)	78
第 51 図	8層出土土器 (8)	79
第 52 図	8層出土土器 (9)	80
第 52 図	8層出土土器 (10)	81
第 54 図	8層出土土器 (11)	82
第 55 図	8層出土土器 (12)	83
第 56 図	8層出土土器 (13)	84
第 57 図	8層出土土器 (14)	85
第 58 図	8層出土土器 (15)	86
第 59 図	8層出土土器 (16)	87
第 60 図	8層出土土器 (17)	88
第 61 図	8層出土土器 (18)	89
第 62 図	8層出土土器 (19)	90
第 63 図	8層出土土器 (20)	91
第 64 図	8層出土土器 (21)	92
第 65 図	8層出土土器 (22)	93
第 66 図	8層出土土器 (23)	94
第 67 図	8層出土土器 (24)	95
第 68 図	8層出土土器 (25)	96
第 69 図	8層出土土器 (26)	97
第 70 図	8層出土土器 (27)	98
第 71 図	8層出土土器 (28)	99
第 72 図	8層出土土器 (29)	100
第 73 図	8層出土土器 (30)	101
第 74 図	8層出土土器 (31)	102
第 75 図	8層出土土器 (32)	103
第 76 図	8層出土土器 (33)	104
第 77 図	8層出土土器 (34)	105
第 78 図	8層出土土器 (35)	106
第 79 図	8層出土土器 (36)	107
第 80 図	円盤状加工土器片実測図	108
第 81 図	攪乱層・出土層不明土器実測図	109
第 82 図	黒岩遺跡出土石器垂直分布図	110
第 83 図	7層出土土器分布図	111
第 84 図	7層出土剥片石器実測図 (その1)	115
第 85 図	7層出土剥片石器実測図 (その2)	116
第 86 図	7層出土剥片石器実測図 (その3)	117
第 87 図	7層出土大型剥片石器・石核実測図	118
第 88 図	7層出土礫器実測図 (その1)	119
第 89 図	7層出土礫器実測図 (その2)	120
第 90 図	7層出土磨石・石皿類実測図	121
第 91 図	7号集石に伴う礫石器実測図	122

第 92 図	8層出土石器分布図	123
第 93 図	8層出土剥片石器実測図 (その 1)	127
第 94 図	8層出土剥片石器実測図 (その 2)	128
第 95 図	8層出土大型剥片石器・礫器類実測図	129
第 96 図	8層出土礫器実測図 (その 1)	130
第 97 図	8層出土礫器実測図 (その 2)	131
第 98 図	8層出土礫器実測図 (その 3)	132
第 99 図	8層出土磨石・敲石実測図	133
第 100 図	8層出土敲石・石皿実測図	134
第 101 図	黒岩遺跡 1 号集石下部の配石 (左) と 9 号集石とその土坑 (右)	135
第 102 図	十文字原第 1 遺跡の配石墓	136
第 103 図	縄文早期前葉の土器編年	138
第 104 図	稲荷山遺跡の土器	139
第 105 図	黒岩遺跡出土剥片石器類対比図	143
第 106 図	黒岩遺跡出土礫器類対比図	144
第 107 図	黒岩遺跡に搬入された各地の黒曜石	145

写 真 図 版

黒岩遺跡全景（東から）	5
黒岩遺跡全景（北西から）	7
黒岩遺跡調査区全景	9
調査区土層断面と4区5区の検出状況	11
1号集石下部の配石（北から）	13
1号集石下部の配石（西から）	13
5号集石	15
5号集石近くの斧状礫器出土状況	15
帯状施文土器	17
摺系文土器	17
8層出土剥片石器	19
8層出土礫器	19
調査風景	1～2
遺構検出状況	3～12
遺物検出状況	13～16
押型文土器	
無文土器	
条痕文土器	
第7層出土石器	1～7
第8層出土石器	1～8

表 目 次

表 1	黒岩遺跡7層出土石器一覧表（剥片石器類）	112
表 2	黒岩遺跡7層出土石器一覧表（礫器類）	114
表 3	黒岩遺跡8層出土石器一覧表（剥片石器類）	124
表 4	黒岩遺跡8層出土石器一覧表（礫器類）	125

第1章 はじめに

1. 調査に至る経過

本遺跡は、大分市大字安藤に所在する。

遺跡の所在する大分市大字安藤は、大野川の支流で東流する河原内川の上流源流部周辺にある農山村地域である。調査箇所は河原内川沿いを通る県道弓立中戸次線と大分市の国道442号を起点とし、大野郡大野町に至る県道大分大野線が交差する地点である。本遺跡の調査原因となった県道大分大野線の道路改良工事は、現在幅員狭小、線形不良で車の離合が困難な場所の改良で、大分市中心部と大野郡地域を最短で結ぶ重要な幹線道路の改良工事として計画されたものである。

当該地区は、分布調査を平成13年度に実施し、遺跡の所在の可能性が高い地区とした。用地買収後、用地立ち入りが可能となった平成14年8月18日に大分県大分土木事務所から試掘調査の依頼があり、同年9月1日に試掘調査を実施した。その結果、調査対象地区の一部において縄文時代早期の上器を検出した。協議の結果、本調査を実施することとなり、平成14年12月2日に開始し、平成15年2月18日まで発掘調査を行った。

発掘調査日誌抄録

平成14年12月 2日(月) 重機による表土除去開始。試掘で無遺物層と確認されたアカホヤ層も除去する。

平成14年12月 5日(木) 基準点測量、調査区の設定を行う。アカホヤ直下層から押型文土器を検出。

平成14年12月11日(水) 4区において、集石遺構を検出。押型文土器包含層の下部の黒色土層も無文上層包含層と確認。

平成15年 1月15日(水) 調査区南側の拡張を重機にて実施。

平成15年 1月20日(月) 1号集石の下部で初めて石鏃検出。埋葬遺構の可能性浮上。

平成15年 1月31日(金) 下部の黒色土層中からも集石遺構を検出。

平成15年 2月12日(水) 遺跡の空中写真撮影を実施。

平成15年 2月18日(火) 発掘調査を終了する。

2. 調査団の構成

黒岩遺跡発掘調査団の構成は、次のとおりである。

調査主体	大分県教育委員会	
調査総括	石川 公一	大分県教育委員会教育長
	岩尾 康晴	大分県教育庁文化課長
	麻生 祐治	大分県教育庁文化課参事兼課長補佐
調査担当 (調査員)	清水 宗昭	大分県教育庁文化課参事兼課長補佐
	西 哲弘	大分県教育庁文化課主幹
	高橋 信武	大分県教育庁文化課主幹
	五十川雄也	大分県教育庁文化課嘱託職員
	堤 真子	大分県教育庁文化課嘱託職員
調査事務	東保 春菜	大分県教育庁文化課嘱託職員
	高橋 徹	大分県教育庁文化課主幹
	西森 公誠	大分県教育庁文化課主査

第2章 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

大分県南部の最大の河川である大野川は、九州中央部に位置する阿蘇外輪山・九重火山群・祖母傾山系を源とする無数の小河川を集め、また、中下流においても流域の山地からの支流を集めて別府湾に注ぐ。黒岩遺跡が立地する河原内川は、これら支流群の中では最も下流域にその合流地点をもつものである。遺跡は、その合流点から西へ9km上流部に位置する。

黒岩遺跡の背後は、中央構造線の延長にあたる大分・熊本構造線の霊山山脈（御座ヶ岳山地）がある。この地塁山地は北東－西南に軸をもち、遺跡はその断層崖の東南麓に立地する。まさに遺跡の位置は、河原内川の谷と御座ヶ岳の断層崖がぶつかるT字形の谷地形の一角にあたる。

遺跡は、断層崖から延びる舌状丘陵の南面する傾斜地標高270m地点にあり、この一帯では最も陽当たりの良いところである。また、遺跡のすぐ西側は清冽な沢水があり、居住空間としては好条件を備えているといつてよい。さらに御座ヶ岳東南断層崖の谷筋は、古来大分平野と大野郡を結ぶ最短距離と知られており、大野川筋から延びる河原内谷との交点としての位置を示している。その立地は、先史時代の社会においても人の移動において、主要な役割を果たしたと想像できるものである。加えて、遺跡の周辺の基盤は中生代大野川層群の礫岩で構成され、それらから分離した多種の石材が遺跡周辺の河床に豊富に見られる。遺跡出土の石器が一部の石材を除いて、こうした石材を利用していることも、この遺跡の構成要素と捉えることができる。

2. 歴史的環境

黒岩遺跡の所在する大分市大字安藤は、大野川の支流である東流する河原内川と南流する柴北川の上流源流部にあたり、急峻な地形のためか遺跡は、現在のところ周辺地区では確認されていない。わずかに、中世の遺跡として安藤常宗が築城し大友除国ときに毀されたと伝える円形の空壕を残す田付城跡があるのみである。その意味では、当該遺跡は、孤立性の高い遺跡といえるものである。

その流域に旧石器時代や縄文時代の遺跡が濃密に分布する大野川は、黒岩遺跡の東方9kmを別府湾にむけて北流している。この大野川の中流から下流にいたる一帯は、兩岸に河岸段丘がよく発達しており、そこには、多くの後期旧石器時代から古墳時代にかけての遺跡が確認されている。犬飼町の市ノ久保遺跡・津留遺跡等の旧石器時代の遺跡、大分市の利光遺跡や犬飼町の鳥穴遺跡等の縄文時代の遺跡。また、犬飼町の舞田原遺跡・高松遺跡、千歳村の高添遺跡等弥生時代から古墳時代の遺跡がその代表的なものである。さらに、霊山山脈を越えた北西6kmのところには、黒岩遺跡と同時代の縄文時代早期の遺跡として黒山遺跡があり、黒岩遺跡に最も近い先史時代の遺跡として知られている。

黒岩遺跡は、同時期の他の遺跡と距離的に離れた遺跡であるが、それは、前述したとおり、その立地が谷の交点にあたり、大野郡の内陸部と大野川・大分川を経て大分平野に至る接点としての立地であることから、この時代においても重要なものであったのではないかと考えられる。このことは、黒岩遺跡の所在するところが、現在でも大分市と大野郡を最短距離で結ぶ県道大分大野線上であり、また、郡境として、古代から昭和38年まで大野郡であり、その後大分市に編入された場所であることから推測できるものである。

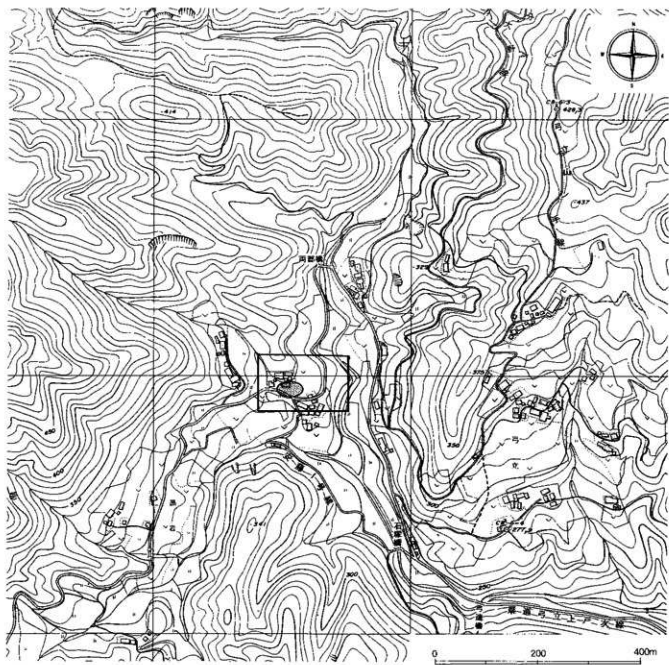
黒岩道路と周辺の道路

- 1 黒岩道路 (大分市 横文)
- 2 黒山道路 (野津津町 横文・古傳)
- 3 若上六道路 (大分市 横文)
- 4 鳥穴園道路 (大野町 横文)
- 5 津路 ()
- 6 下野倉道路 ()
- 7 上津尾道路 ()
- 8 高松道路 (千歳村 旧・中世)
- 9 下野高道路 (大野町 横文)
- 10 坂路道路 ()
- 11 市ノ久保道路 ()
- 12 横ノ木道路 ()
- 13 頭山高道路 ()
- 14 深津久保道路 ()
- 15 利光道路 (大野町 旧・横文)
- 16 飯沼道路 ()
- 17 飯沼 ()
- 18 海津寺道路 ()
- 19 太基 ()
- 20 野田保道路 (大野町 旧・古傳)
- 21 高松 ()
- 22 野田保路穴 ()
- 23 野田保路穴 ()
- 24 野田保路穴 ()
- 25 小島林道路 (野津津町 中世)
- 26 天面山道路 (大野町 古代・中世)
- 27 水ノ元道路 ()
- 28 三ノ路道路 (大野町)
- 29 三ノ路道路 (大野町)
- 30 鶴ヶ城路 (大分市)
- 31 鶴ヶ城路 ()
- 32 鶴ヶ城路 ()
- 33 田新道路 (大野町)
- 34 津津久保道路 (大野町)
- 35 下津尾オアシジカ土地 (大野町)
- 36 光島寺道路 (大野町 中世)
- 37 高橋道路 ()
- 38 藤田道路 (野津津町)
- 39 藤田道路 ()
- 40 藤田道路 ()

第1図 黒岩道路と周辺の主要道路分布図

(国土院縮尺1/50000(大野町使用))





第2図 黒岩遺跡の位置と周辺の地形(大分県森林基本図「No.341」から転載、は第3図の範囲)